

令和3年(2021年)度 第1回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会 記録

【日 時】 6月19日(土) 10:00~12:00

【場 所】 大阪府立西成高等学校 多目的室A

【出席者】 (会長) 西田芳正委員、(副会長) 高見一夫委員、
緋田隆平委員、榎井縁委員、田中俊英委員、寺嶋公典委員、堂上勝己委員

- 【内 容】
1. 校長挨拶
 2. 委員・事務局紹介、会長・副会長選出
 3. 議事
 - (1) 今年度の重点取組み事項について
 - (2) 生徒の現状について
 - ① 各学年の様子 / ② 「学校生活と人権アンケート」結果と取組みへの提言
 - (3) ロードマップにもとづく「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」実施計画について

【議事について学校からの説明】

- 4月から、PCR陽性者が出て保健所の指示で6回臨時休校した。ここ3週間続けて授業ができた。中間考査をやめ、授業そのものを確保していこうと進めているところ。体育祭も延期して生徒の取組み充実を考え、校外のアリーナを使って熱中症対策等もできるような形で検討している。
- 今年度の重点取組み事項について。めざす学校像で「第3の教育」と言っているが、中学での支援学級在籍者の8割が高校へ進学する一方で、中学校時代の不登校の生徒に対しても高校卒業の支援をというニーズが合わさった形でエンパワメントスクールというのが存在してきている。(当初はそういう思いではなかったが)。要支援の生徒と小中学校不登校等で学校から離れた生徒が、人間関係をむすびながら高校卒業して幸せになるためにどうしたらいいか、ということが大きな目標である。
- 3年連続定員割れという想定していなかったことが起こっている。セーフティネットを求めている生徒も含めて生徒減少期に入っている。私立もテリトリーとして手を伸ばしてきているという状況の中で、公立高校として最もしっかりやってきた我が校はどうするべきなのかということが求められている。
- 学校運営体制を変えた。1年は6学級。2年は7学級に増やし、1クラス約25人で担任1人。3年も同じ。
- 「キャリア教育でエンパワー」にある「地域課題研究」というカリキュラムについて、地域との連携の中で生徒が地域を元気にするための知恵を出して言って関わっていこうと、西成区長からもオーダーを受けている。同友会の支部のみなさんからも一緒にやりましょうと言われていた。校内では、地域や地域課題研究を研究する会を作ろうと思っている。その中で特に起業家教育をしたいと考えている。
- 最大の課題として、組織としてどうどういうふう記憶力を発揮させていくのか。組織を属人的なその1人に属するようなことで回すのではなく、組織としてどうしていくのか。それが継続的に子どもの幸せを支援している学校になるんだろう。また、教員全体の大きな課題としては評価の問題。学習指導要領が変わって観点別評価をしていくことになる。生徒のどうどういうところを見てどう評価すれば生徒たちはやる気になるか。継続的に研究していく。
- エンパワメントスクールが府内に8校ある。それぞれの地域に作った(もともと地域に根ざしていないと困る学校)ので、繋がりが非常に弱い。本校は自立支援とエンパワメントスクールの融合であるが、次に狙うべきは何なのか。アントレプレナーシップ教育をベースにしたような事業展開や、調理士免許が取れるよう

な教育課程や、芸術に特化しているような学校など。考えなければならないのは、要配慮生とそうじゃない生徒のバランスをどう考えていくのか。この1年のテーマとして考えていきたい。

- 3年について。スタートからコロナ休校がいっぱい出て波に乗れない状態から始まった。体育祭が延期になってメリハリがないままずっとここまできている感じで疲れているような雰囲気はある。しかし体育祭があると2週間後にある、最終学年で学校を引っ張っていかないという意識はみんなそれぞれ持っているような感じで、体育祭に向けて頑張ろうっていうような雰囲気は出てきている。

就職にむけて、去年のインターンシップ中止、企業の合同説明会も中止ということで、実際の会社と一切ふれあいのないまま就職に向かうことになる。2年生最後の面接テストはすごく緊張感持っていない雰囲気でも出来た。7月からの応募前職場見学、8月2日の最終面接テストに向けて緊張感を持ってやっていく。

最後の1年、成人年齢引下げもあり、学年目標は「社会に通用する大人になる」。西成高校に来て良かったなどと思えるような気持ちで卒業できるように学年としても取り組んでいきたい。

- 2年について。6月15日に、ちょうど1年前入学式だったなと思った。優しい子どもたちがすごく多い。今年もインターンシップが厳しい中、「やりたい仕事は必ずしも自分にとってできる仕事じゃない」ということを伝えていきたい。今の一番の悩みは宿泊研修。大きな行事がどんどん減らされている中、何としてでもできるようにしたい。
- 1年について。定員を大きく下回って193人でスタートした。例年と比べちょっと覇気がない、元気がないような感じもある。休み時間は教室でじっと座ってスマホ見つけて過ごしているというような感じ。危機意識を持っているのは、中学校で8割休んでいた生徒もいるので、高校が続くかどうか非常に心配。学校は安心して楽しく学べるころなんだよっていう気持ちを芽生えさせていきたい。まだ学校行事を1つも体験していないが、小さな褒めることを担任に徹底してやっていただきたいと思っている。学校ではクラスLINEをうまく活用していきたい。
- 学校生活と人権アンケートについて。アルバイトしたいけれどもなかなか見つからない生徒が去年よりかなり多くなっている。アルバイト代の使い道については、だいたい親に渡す/定期代とか教材費とかお昼ご飯代等が多くなっており、学校生活に必要なものに使っている回答が多い。家を出たいと思ったことがある・自分の性格で嫌だと思ふところが多い・自分のことは自分で決めている・周りの大人は自分に大きな期待をかけていない について、すべての項目において大阪平均よりもかなり高い数値が出ている。家の中に自分の部屋があるのは66%で増加している。学習するための机がないのは15%。オンラインでの課題の受け取りや課題提出動画視聴などができるかどうかについては難しい・できないと答えた生徒が14.4%、これは1クラスあたり3.6人はオンラインが難しいということ。最後に、西成高校生であること、西成高校に入学することに対して周りの人から嫌なこと言われたり態度にだされたことがあるか、について24.8%の生徒があると回答している。これに対しては、西成学習やテーマ別の人権学習などを通じて今後学習を進めていく。
- ロードマップについて。コロナ休校で予定が変わり何度か書き直している。このロードマップは、転任者が増え教員が入れ替わっても、しっかり次の人たちに記録を繋げていくもの。「チャレンジ」のマップや「キャリア教育」のマップで、この学習は何のためにするのかというのをきちんと伝えるためのもの。今後はこのロードマップを生徒にも示して、3年間でこんなことを学んで行くんだ、と思ってもらえるような形で提供できたらなと思っている。
- 45期生の卒業後の進路について。就職については「フリーター・その他」が今年は増加している。その原因としてはやはりコロナで販売の求人がなく、ほかの業種に変更せずにそのまま卒業してアルバイトで頑張るという生徒が多く見受けられたため。進学者が例年よりも少し多くなっている。

【各委員からの主な意見等】

- 今年重点課題について全面的に支持したい。今注目しているのは、昔で言うと個人事業主、商店を開いたり町工場を起こしたりみたいなことが、現在なくなった。これからどうしていくのか。地域の中で地域課題を取り上げることを1つの目的として起こしていく取り組みを20年くらいやっているが、どの辺を狙うか。講演会は簡単にできると思うが育てる環境も合わせて作っていく。大人でも難しい話なので、どうこれから考えていくのかという研究も併せてお願いしたい。私のところに大学生からも相談が来る。ベンチャーキャピタルとか先輩の経営者とかの支援体制を作ろうということも含めて考えていただければいいと思う。
- アントレプレナーシップは4,5年前から非営利で流行りだした。NPOの中では曲がり角に来ている。有名な人が何人もいるが、マネージメントが効かなくなる、末端が麻痺している状況もある。負の側面もある。
- 個人事業主をもう一度見直す時代ではないか。個人事業とか株式会社は起業しやすくなっているのは事実。先走った非営利組織の方は夢をばらまく時代ではなくなっている。非営利じゃなくて民間のリセッター、SDGsなども絡ませて。それをふまえてやると西成高校が先陣きっているみたいな感じになる。
- 地域課題研究、是非連携させて欲しい。地域の小中学校でも人権学習やっているが、そこを連携しながらやっていきたい。街が元気になって欲しいので、高校に近い鶴見橋商店街で、この時期は高校で商店をやったりなどもおもしろいが、実際やってみると人が来ないとか、マッチしていないとかもあるので、ニーズに基づいた事業をやると活気づいたり学校の売りになってくると思う。ぜひ一緒に相談させてほしい。
- 地域課題、西成と付き合って20年以上になるが、やっぱり課題から入る。厳しい現実があるが、同時に変えがたい価値もいっぱい見つける。その地域資源をどう見つけどう活用するか、人も含めて。それを如何にしたら街が活性化するのか。「自分もこの街に住みたい」という街になるのかという発想もいるのかな。
- ⇒ どうしても地域課題から始まってしまう。3年前に「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」で東京まで行ったとき、面接官が「それは西成のマイナスをゼロにする活動ですか」と言ったが、それは逆に言うと自分たちもそこからしか入ってなかったのではないか。子どもたちがこの地域をどう見ているか、どういう風にプラスに思っているのか。小中連携して学習しながら進められたらいいと思う。また、生徒に金儲けということを実際に考えさせたい。商業の授業で商店街に店を開いたこともあった。電話1本でできる仕事もある。いろんなことを制限つけずに考える、大人ももっと考えねばと話を聞きながら思った。
- 企業でも今までのビジネススタイルはもう通用しなくなっていくだろうなというのはいま感じている。キーワードになるのは地域の課題をどう解決していくか。生徒からいろいろなアイデアを頂いて解決する方法はいろいろとれるが、学校単位でやるのか、プラットフォーム的なものを作るか。また、作るだけではなく売る側の企業にも入ってもらわないといけないので、何企業か集まらないと完結しないだろう。企業と生徒が「どうしよう」と考える、中核的なものを今やりたいと思っているので、参加してもらおうとか可能かなと思う。
- 働く力をいかにつけるか、技術・資格をいかにつけるか、それを地域の企業のニーズといかに密接に繋げるかということと、支援を要する人たちの学習に繋げるか、職業教育に繋げるかというのはわれわれのテーマ。高校卒業してもっと学びたいとき、アメリカには制度がある。そういうものがあれば高校時代に学べることはどんどん学校に落としていけるし、学べなかったら卒業してから繰り返し働きながら学ぶこともできるし、講座を提供できる。西成高校と関わって1番やりたいことはそれ。企業は何をすべきか、学校は何をすべきか、どんなメニューを提供してどんな資格を提供できるか、ということ館あげて協力したい。これが制度化されたら大阪素晴らしい。教育庁だけでなく労働部局も含めて制度化を考えていただきたい。
- 日本のアニメーションが国際的に認められるジャンルになったので、高校で新しいコースを取り入れても

良い。いろんなアイデアが欲しいっていうなら、声優とアニメーターが良い。アニメーターには、キャラクターデザインのほうと、風景とかCGで出すほうの2種類ある。声優への思いは純粋なので、無理ならアニメーターに流すとか、東京以外でも大阪の小さい広告会社へ就職できますよ、みたいなのを取り込める。公立高校だからできると思う。

- 私立の高校は、「いろんな経験ができますよ。クオリティーもとても高いですよ」って言っている。講師は専門学校から来て専門学校と直結する。鬼滅の刃などが書ける講師なら若者受けするが、不登校や発達障がいのある生徒支援などはできない。生徒のフォローは学校の先生が中心でやりながら絵の勉強だけは専任講師、みたいなコースを作ったら退学を防げる。ビジネスモデルとしてとても上手くいこう。
- 途中で転学する子たちの行き先の、私立の通信制学校のような高校が、非常にバラエティーにとんでいて、将来も大丈夫だよ、みたいにバラ色に広報している。お金も結構かかるみたいで心配。状況は変わっていく中、西成高校が大事にしてきたことを発信する攻めの姿勢が求められているのではないかな。
- 可能性もあるけど、楽な方にすい寄せてお金を吸い取るっていう、実はとても危ない高校だというふうにも思う。そこ公立高校が乗っかっていくっていうのは、勝負っていうのもあるけど危うさを感じる。
- 発達障がいのある生徒が芸術系の大学に行って物凄く能力発揮するっていうふうな道もある。
- 専門学校では人権学習はしない。高校では、そのことが楽しみで高校へ来て、それ以外にもいろんなことを学びながらどっちも大事だなあという3年間を過ごせる。また、地域連携の中で鶴見橋商店街のアナウンスをするなども面白い。部活動でもそういうブランドを作ってやったらやりがいがあるはずと面白くなる。
- 短大で、いわゆるアニメーションと、調理師のコースができた。そこで私は人権の講義を見ている。障がいのある学生もたくさんいるが、感覚が良かったり、社会問題がすごく入ってきたり、一度も習って来なかったみたいなのに文章をしっかりと書けたり、なので、いろんな切り口から入ってくることがあったらいいなと思う。調理とかアニメとか手に職みたいな憧れがあると、要支援ではない生徒たちにとっても魅力はありそうな気がする。さらに、地域課題とか人権の問題を入れることもできる。暴力にしても貧困にしても、それが自分の問題ではなくて社会の問題なんだということがわかると、すごいやっぱり食いついてくるというか、びっしり文章を書く。
- アンケート、放課後の過ごし方について、ヤングケアラー問題について、教員で問題を共有して欲しい。生徒は誇りを持ってやっている、それは言い換えると搾取、こども自身の時間は奪われている。この200年ぐらいで子どもの概念ができてきて、公教育を受ける権利がある、ケアは大人がするというのが近代の常識になっている。ヤングケアラーしている生徒たちにどういうふうなフォローを考えているのか。全国平均4%、西成高校が25%、この差は、親御さんに高校としてできることは限られていると思うが、この差にどのように取り組むかというのが大きな課題だろう。
- ⇒ ヤングケアラーが多いというのはほぼ周知されている。遅刻しても保育園に送っているとかもわかっている。担任はよく話を聞いている。やっぱり家族の一員（自縛かもしれないが）なので献身的に面倒見ていることが多いので否定してはいけないと思っている。学校で何ができるか。こども食堂行ったらというのも一つ。生徒は訴えるという力もそこまでなく、現状を受けいれている。気持ちのケアに、となりカフェもそうだが、いろんな人間が関わっているというのが本校の役割。
- ご飯食べられていない数値も大変。それぞれの先生が、この子とその子がそうなんだという実態の把握、顔が分かる感じで把握できているか？
- ⇒ 分かっている。カフェと提携して、冷凍豚まんとか、焼ビーフンとか、電子レンジさえあれば食べられるので、見えている生徒には食べてなさそうだなというのがあったら担任などでも対応できている。ただ、それ

だけでは補うことはできない。1月1回朝食をカフェにやっていただいたりしている。

○ モーニングカフェで気づくのだから、腹もすいているが、親というか自分が置かれている境遇に対して何とも言えない怒りというのがある。親が苦労しているのは良くわかっているが、ちょっと違和感みたいな憤りみたいな感じをスタッフに言う。もうお腹よりもまず精神なんだと感じる。

⇒ 学校としてはどう思っているのか、基本本人には世話をしているとかやらされているという自覚がないので、そのことがちゃんと対処できるカリキュラムがあるだろう。本校教員もよくインタビューされるが、そこで初めて特別なことやってるんだって気づく。それまでは普通のことをしていて思っていたのが他所から見ると非常に変わっているんだという風に思われているみたい。「ヤングケアラー」と言われる生徒たちが、自分たちのことがわからないと、親をどうするか家庭をどうするかって言っているのかわからない。道を例えばその家庭から自立して行くような進路を考えるのか(できるだけこの方向で進めたいが)、その中にどっぷり浸かって生きて行くのかということも本人で選べるようになるといい。この生徒たちは小学校からずっとそうなので、高校入ってからいきなり子どもたちの世話をした訳ではない。10何年続いているので、地域との連携とかが必要なのかなと思う。

○ アルバイトのところ、したいのに見つからないのか、面接に行ってるけど落ちてくるとか、それは何が原因かとかいう実態が判った方が次の対応がしやすい。心理面と実態面が混じっている。

○ 定着支援をしていると、アルバイトをやっていた生徒のほうがスムーズに就職も入り込んでいるなどという気がする。アルバイト支援で繋がっている生徒で、何か自分を表現することができなかつたり、コミュニケーション上の問題を抱えていたり生徒は、クリエバさんで練習させて働く練習を段階的に行いアルバイトにつなぐ形にしている。

○ アンケート、学年によっての変化は？ 3年間教育を受けると回答が変わってくるとか、総数ではなく学年ごとでどう変わってくるとか、なんかそういうイメージは？

⇒ イメージで言うと、3年間の学校行事等で特に3年生の就職活動の時期なんかは自分から動けるようになってたり、自信をつけた状態で自己PRができるようになっていたりとかっていうのは担任していた時には感じることもできた。生徒の状態を見て自己肯定感っていうかその自信をもって卒業していったなっていうのは感じる。

○ 1つの学年が2年前3年前のデータと比べてこんな風に変わっていったのかとか、その学年の個性とか例えば定員割れした1年生はどんな傾向があるとかいう風に細かく見ていけばもっと大事なことが出てくるかもしれない。あるいはその昨年比での増減が、特に変化が大きかった項目など、こちらはその本業なので余計に気になるところ。捕まえるべきところがいっぱいあるお宝の情報だと思う。

○ 定員割れて193人になったが、逆に言うのとらえやすくなった。ここが悪いとかでなく単なる1学年の全人口が減っているというのが1番大きいと思う。中退者を減らすというのは数が少なくなればなるほど取り組みやすいんじゃないか。単純に思うと定員割れは逆にチャンスだと思った。

【今後の予定】

第2回) 10月16日(土) 10:00~12:00

第3回) 1月22日(土) 10:00~12:00